

2019年（第8回）

鳥栖・ツアイツ子ども交流事業報告書

令和元年7月28日（日）～8月12日（休・月）

派遣先：ツアイツ市（ドイツ国）



鳥栖市・鳥栖市教育委員会

*目次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

*鳥栖・ツアイツ子ども交流事業参加者名簿・・・・・・・・・・・・ 2

*事前研修・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

*訪問日程表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4～5

*ツアイツ市概要及びツアイツとの交流のあゆみ・・・・・・・・・・・・ 6～8

*参加者の感想・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9～19

*日記・・ 20～36



鳥栖・ツアイツ子ども交流事業参加者名簿

【団員】

生徒氏名		年齢(歳) (出発時)	性別
宮原 孜瑠	MIYAHARA SHIRYU	13	男
桑原 孝明	KUWAHARA KOUMEI	14	男
篠原 美賢	SHINOHARA MISATO	14	女
檜枝 香花	HIEDA KAHANA	14	女
宮原 伽歩	MIYAHARA KAHO	15	女
長尾 咲幸	NAGAO SAYUKI	15	女
小石 桃花	KOISHI MOMOKA	17	女

【引率】

所属	役職	氏名		性別
鳥栖市 市民環境部 市民協働推進課 男女参画国際交流係	課長補佐 兼係長	下川 有美	SHIMOKAWA YUMI	女
鳥栖市 市民環境部 市民協働推進課 男女参画国際交流係	主事	鳥飼 昌弘	TORIKAI MASAHIRO	男

事前研修

○6月 9日（日）オリエンテーション

スケジュールについて
団員自己紹介
旅行手続説明
ドイツ滞在中の注意事項



○6月15日（土） 第1回事前研修

ドイツ文化（ドイツクイズ、日本語の中のドイツ）
ドイツ語（アルファベット）
研修テーマの検討
送別会の出し物検討



○6月22日（土） 第2回事前研修

ドイツ文化（ドイツクイズ）
ドイツ語（アルファベット、数字、毎日使うドイツ語）
研修テーマの検討
送別会の出し物検討
ホストファミリー組合せの決定



○6月29日（土） 第3回事前研修

ドイツ文化（東西ドイツ、統一ドイツ）
ドイツ語（数字、毎日使うドイツ語、自己紹介）
研修テーマの決定
送別会の出し物検討
リーダー、副リーダー決定
日記担当の決定
結団式・解団式の日程決定

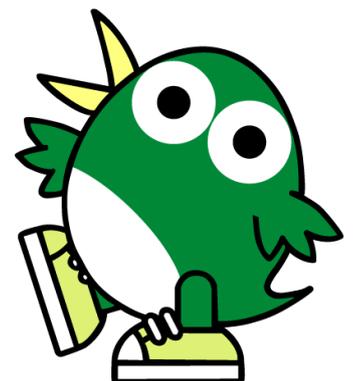


○7月13日（土） 第4回事前研修

ドイツ文化（環境編、強制収容所）
ドイツ語（自己紹介、毎日使うドイツ語）
送別会の出し物の決定
旅のしおり、ホームステイミニマニュアル説明

○7月20日（土） 第5回事前研修

自己紹介の練習
千羽鶴作成
送別会の出し物の練習



- 結 団 式** 7月26日（金）
- 本 研 修** 7月28日（日）～
8月12日（休・月）
- 解 団 式** 8月12日（休・月）
- 事後研修** 10月 5日（土）
研修テーマのまとめ
- 報 告 会** 11月 3日（土）

姉妹都市等海外日本庭園修復モデル事業と合同で
報告会を開催。（市民文化会館ホワイエ）
合同パネル展を開催。（市民体育館：11月2～3日）



訪問日程表

月日	時間	内容	移動方法	備考
7月28日 （日）	6:00	福岡空港国内線集合	各自	
	7:30	福岡空港出発（NH432便） ～8:45 中部国際空港到着	飛行機	
	10:00	中部国際空港出発（LH737便）	飛行機	
	∫	（時差 -7時間）		
	15:10	フランクフルト国際空港到着/入国手続		
	17:00	フランクフルト空港乗継/出発（LH160便）	飛行機	
7月29日 （月）	17:55	ライプツィヒ空港到着 ツァイツ市・受入家庭出迎え/各家庭へ	自家用車	ホストファミリーと一緒に
	11:00	ツァイツ市役所 市長表敬訪問 ツァイツ市役所見学（市役所の塔登り）	徒歩	
	13:00	昼食（レストラン「ルスティカ」）		
	14:30	ドラムワークショップ		ツァイツ市学生と一緒に
7月30日 （火）	17:00	解散・受入家庭へ帰宅	自家用車	
	9:00	学童保育所訪問	大型自動車	
	11:00	モーリツブルグ城の見学（乳母車博物館）		
	13:00	昼食（青少年の家）		
	14:30	ブーヘンヴァルト強制収容所跡訪問前のワーク ショップ		
7月31日 （水）	17:00	解散・受入家庭へ帰宅	自家用車	
	8:00	ブーヘンヴァルトへ出発	大型自動車	ツァイツ市学生と一緒に
	10:00	ブーヘンヴァルト強制収容所跡訪問（千羽鶴奉）		
	13:30	昼食（ケバブ）	徒歩	
	14:30	ワイマール市内見学		
	16:30	ツァイツ市へ移動	大型自動車	
17:30	解散・受入家庭へ帰宅	自家用車		

月日	時間	内容	移動方法	備考
8月1日 (木)	9:00	乗馬体験	大型自動車	ツァイツ市学生と一緒に
	12:00	昼食(騎士の家)		
	13:30	馬車で移動		
	14:00	ツァイツ地下通路見学		
	16:00	日本庭園見学	大型自動車	ツァイツ市学生と一緒に
	17:00	解散・受入家庭へ帰宅	自家用車	
8月2日 (金)	10:00	ポーザー修道院(シルクスクリーン工房)	大型自動車	ツァイツ市学生と一緒に
	12:30	昼食(ポーザー修道院)		
	13:30	ポーザー修道院(シルクスクリーン工房)		
	16:00	解散・受入家庭へ帰宅	自家用車	
8月3日 8月4日 (土・日)		ホストファミリーの企画		
8月5日 (月)	9:00	ライブツィヒへ移動	大型自動車	
	10:00	ライブツィヒ市内見学(行政最高裁判所他)		
	12:00	昼食(カレーヴルスト)		
	13:00	ライブツィヒ市内見学(諸国民戦争記念碑他)		
	16:00	ツァイツ市へ移動		
	17:00	解散・受入家庭へ帰宅	自家用車	
8月6日 (火)	9:00	コロリート劇場訪問/劇制作	大型自動車	ツァイツ市学生と一緒に
	12:00	昼食(コロリート劇場)		
	13:00	ナウムブルグへ移動		
	14:00	アスレチックの森体験		
	17:00	解散・受入家庭へ帰宅	自家用車	
8月7日 (水)	8:00	マグデブルグへ移動	大型自動車	一部のホストファミリー 同行
	10:00	州議会堂見学		
	12:00	昼食(州議会堂レストラン)		
	14:00	マグデブルグ大聖堂見学		
	16:00	ツァイツ市へ移動		
	17:00	解散・受入家庭へ帰宅	自家用車	
8月8日 (木)	8:00	ザールフェルトへ移動	自家用車	
	9:00	フェーングロッテン(妖精洞窟)見学	大型自動車	
	13:00	昼食(ハイデックス城レストラン)		
	14:00	ダムの見学		
	16:00	ツァイツ市へ移動		
	17:00	解散・受入家庭へ帰宅	自家用車	
8月9日 (金)	9:00	和食調理(青少年の家)		
	12:00	昼食(青少年の家)		
	13:00	和食調理(青少年の家)		
	15:00	送別会出し物の準備・練習		
	18:00	ツァイツ市関係者、ホストファミリーと送別会		
	22:00	解散・受入家庭へ帰宅	自家用車	

月日	時間	内容	移動方法	備考
8月10日 (土)		ホストファミリーの企画		
8月11日 (日)	12:30	ライプツィヒ空港集合・待合/搭乗手続	自家用車	ホストファミリー見送り
	14:40	ライプツィヒ空港出発 (LH163 便)	飛行機	
	15:35	フランクフルト国際空港到着		
	18:10	フランクフルト国際空港乗継/出発 (LH716 便)		
8月12日 (休・月)		(時差 +7時間)		
	12:15	羽田空港到着/乗継	飛行機	
	15:45	羽田空港出発 (NH261 便)		
	17:35	福岡空港到着/入国手続・荷物受取		
	18:00	福岡空港出発	貸切バス	
	18:50	鳥栖市役所到着/解団式		
	19:15	解散		

ツァイツ市概要

位置

- ツァイツ市はドイツの北東部にあるザクセン・アンハルト州の南端にあります。
- ツァイツ市はライプツィヒの南西42kmに位置し、ライプツィヒ空港まで車で約1時間ほどです。

面積

87.16 km²

人口

28,854人

特徴

○交通の要所

ツァイツ市は、2つの高速道路A9、A4が近くを走り、市内でB2、B91、B180の3本の国道が交差しています。鉄道は、ライプツィヒ - ゲラ線が通っており、交通の便がよい街です。

○主な工業

化学工業が最も盛んであり、機械工業、環境工学、採炭工業、サービス業があります。

歴史

- 967年、ツァイツが「Cici」の名前で文献にでています。中世の頃、司教の居住地として栄え多くの歴史的建造物が作られました。
- 19世紀半ばに、石炭鉱業が盛んになり、1900年代前半には、化学製品やピアノ、乳母車、褐炭処理機械が世界中に輸出されました。
- 1936年フッペルのピアノ製造工場が、ピアノ製造を停止、戦後工場は閉鎖されました。
- 1949～1990年ドイツ民主共和国（東ドイツ）に属し、計画生産のもと多くの工業が盛んでした。

ツァイツ市との交流のあゆみ

年	月	主な内容
1998	10	朝日新聞鳥栖通信局の記者が、フッペル社がドイツのツァイツ市にあったことを確認。
1999	3	「映画『月光の夏』を支援する会」事務局長が鳥栖市長の親書を携えツァイツ市を訪問。朝日新聞鳥栖通信局記者が同行。
	5	ツァイツ市長から交流を推進したいと返信がある。
2000	3	「鳥栖子どもピアノコンクール実行委員会」が、受賞記念コンサートに、ツァイツ市音楽学校校長及び生徒2名とツァイツ市職員を招待。
2001	4～5	「鳥栖子どもピアノコンクール実行委員会」代表、コンクール受賞者2名、秘書広報課長がツァイツ市を訪問。
2002	3～4	ツァイツ市長、学校文化局長が鳥栖市を訪問。今後の交流及び2004年庭園博覧会の日本庭園整備に対する技術協力について協議。
	6	市報でツァイツ市との文通希望者を公募。随時、希望者に手紙を配布し文通が始まる。
	6	鳥栖市緑化協会会員2名と広報広聴課長が、ツァイツ市を訪問。日本庭園整備のための現地調査を行う。
2003	5～6	鳥栖市緑化協会会員4名をツァイツ市へ派遣。庭園博覧会会場内に日本庭園完成。
2004	7	鳥栖市長を団長とする総勢17名の訪問団がツァイツ市を公式訪問する。また、庭園博覧会“日本の週”で日本文化を紹介する。
2004	8	鳥栖市の中学生10名、引率3名がツァイツ市を訪問し、ホームステイにて日常生活や学校などを体験。
2005	4	ツァイツ市長をはじめとする4名が鳥栖市を公式訪問。企業視察、伝統文化体験、市民との交流を深め、教育、スポーツ分野での交流について協議。
2005	5	ツァイツ市の学生10名、引率2名が鳥栖市を訪問。ホームステイにて日常生活や学校・日本文化を体験。
2006	1	フッペル平和記念鳥栖ピアノコンクール受賞者がツァイツ市を訪問。ツァイツ市芸術発表会で演奏をするなど、音楽を通じて交流を深めた。
2006	8	鳥栖市の中高校生10名、引率3名がツァイツ市を訪問し、ホームステイにて日常生活を体験。
2006	10～11	ツァイツ市の芸術家が、鳥栖市緑化協会の協力により東公園（ドイツエリア）にモニュメント「月への28の望み」を制作。
2006	11	鳥栖市議会議長をはじめとする5名がツァイツ市を公式訪問し、議会や環境についてなど意見を交換。
2007	5～6	ザクセン＝ツァイツ公国350年祭に招待を受け、鳥栖市、フッペル平和祈念鳥栖ピアノコンクール実行委員会、鳥栖市文化連盟の代表者らが公式行事に参加し、ピアノコンクール受賞者が招待客らを前に演奏。
2007	7～8	ツァイツ市の学生10名、引率2名が鳥栖市を訪問。ホームステイにて日常生活や学校・日本文化を体験。
2008	3	アンナ・マグダレーナ・バッハ音楽学校マティアス・ブッター校長及び学生2名が鳥栖市を訪問。音楽学校生徒2名がピアノコンクール受賞者記念コンサートに出演し、音楽を通じて交流。
2008	7～8	鳥栖市の中高校生7名、引率2名がツァイツ市を訪問し、ホームステイにて日常生活を体験。平和交流の一環として、ワイマール市にある強制収容所跡のブーヘンヴァルト記念館を見学。

年	月	主な内容
2008	7～8	鳥栖市長及び随員1名がツアイツ市を訪問。両市の新市長就任により初対面。子ども交流事業の期間中でもあり、子どもたちの交流と一緒に体験。
2009	6～7	ツアイツ市の学生9名、引率2名が鳥栖市を来訪し、ホームステイにて日常生活や学校・日本文化を体験。
2010	7	第1回ツアイツ市砂糖祭に招待を受け、ツアイツ市を訪問。鳥栖市長の代理として鳥栖市副市長、鳥栖市議会議長らが公式行事に参加。
2010	8	鳥栖市の中高生10名、引率2名がツアイツ市を訪問し、ホームステイにて日常生活を体験。平和交流の一環として、ワイマール市にある強制収容所跡のブーヘンヴァルト記念館を見学。
2011		東日本大震災によりツアイツ市からの来日が延期。ツアイツ市からの義援金約233万円が鳥栖ロータリークラブへ送金。この義援金は、鳥栖市長より気仙沼市長へ届けた。
2012	5	ツアイツ市長をはじめとする4名が鳥栖市を公式訪問。友好交流都市協定を締結。エネルギー関連企業等の施設を視察し、さまざまな意見を交換。 ツアイツ市の学生10名、引率2名が鳥栖市を来訪し、ホームステイにて日常生活や学校・日本文化を体験。
2013	7～8	鳥栖市の中高生10名、引率2名がツアイツ市を訪問し、ホームステイにて日常生活を体験。平和交流の一環として、ワイマール市にある強制収容所跡のブーヘンヴァルト記念館を見学。ツアイツ市へ水害義援金約159万円を贈呈。
2014	5～6	ツアイツ市の学生10名、引率2名が鳥栖市を来訪し、ホームステイにて日常生活や学校・日本文化を体験。
2015	7	国立歴史民俗博物館で行われた「ドイツと日本を結ぶもの一日独修好150年の歴史―」に、両市の交流の歴史についてパネルを出展し、「日独友好関係者の集い」で、ツアイツ市が鳥栖市との交流事業について事例を発表。
2015	7～8	鳥栖市の中高生10名、引率者2名がツアイツ市を訪問し、ホームステイにて日常生活を体験。平和交流の一環として、ワイマール市にある強制収容所跡のブーヘンヴァルト記念館を見学。
2015	10	ツアイツ市フォルクマール・クンツェ市長、同市営企業有限会社支配人アンドレアス・フーケ氏、医師ロビィ・シュレント氏の3名が鳥栖市を来訪。
2016	6～7	ツアイツ市の学生10名、引率者2名が鳥栖市を来訪し、ホームステイにて日常生活や学校・日本文化を体験。平和交流の一環として長崎にある平和公園や原爆資料館を見学。
2017	6	ツアイツ市1050年祭に招待を受け、ツアイツ市を訪問。鳥栖市長の代理として鳥栖市副市長をはじめ、鳥栖市文化連盟8名、鳥栖市緑化協力会2名が公式行事に参加。日本文化の公演及びワークショップ、日本庭園への技術提供を行った。
2017	7～8	鳥栖市の中高生7名、引率者2名がツアイツ市を訪問し、ホームステイにて日常生活を体験。平和交流の一環として、ワイマール市にある強制収容所跡のブーヘンヴァルト記念館を見学。
2018	7～8	ツアイツ市の学生7名、引率者1名が鳥栖市を来訪し、ホームステイにて日常生活や学校・日本文化を体験。平和交流の一環として長崎にある平和公園や原爆資料館を見学。

団員の感想





「16日間で学んだこと」

宮原 孜瑠

僕は今回の研修に参加し、様々な事を学びました。

まず、文化が全く違いました。ドイツ人の人たちは、自分の意見をはっきり言うことに驚きました。日本だと嫌なことや嫌いなものを相手にはっきり伝えることができない部分があるので自分の意見をしっかり持ち、相手にはっきりと伝えることの大切さを学びました。そして、ホストファミリーとの会話でも、自分の思ったことを自分の言葉で伝えることも学びました。英語が喋れなくても、ジェスチャーなど伝えようとする思いがあれば伝わりやすくなると思いました。

16日間でいろいろなところに行きました。特に心に残った所はブーヘンヴァルト強制収容所に行ったことです。そこでは、日本と違う戦争の恐ろしさを知ることができました。ドイツでは、たくさんの強制収容所があり、たくさんのユダヤ人やヒトラーの政治に反対した人達などが迫害されたことを知りました。写真などを見ると考えられないほどひどいことをしていたことがわかりました。なので、これからもこのことを忘れずに過ごしたいです。

次に心に残った事は、日本ではあまり体験できないことをできたことです。特に乗馬体験は心に残りました。最初は怖かったけど段々怖くなくなり楽しかったです。ドイツのスポーツ店に行っても野球のコーナーが無く、乗馬のコーナーがあるのに驚きました。日本では、なかなか体験できないことをできてよかったです。ザクセン-アンハルト州の州議会議事堂に行けたことも心に残っています。日本とは違う議会の仕組みを知ることができてよかったです。

僕は、この16日間でコミュニケーションをとる難しさや、他人と会話するうえで自分の意見をはっきり持ち、それをどれだけ自分の言葉で伝えることの大切さを学びました。

僕も最初は不安だったけれど、だんだん慣れてきて会話が楽しくなってきて、とても有意義な16日間になりました。この経験をこれからの生活に活かしたいです。



「夢のような時間」

桑原 孝明

ドイツに出発する前の晩、僕は期待と不安でなかなか寝付けませんでした。12時間のフライトでライプツィヒ空港に着くと、ホストファミリーの方々の熱烈的な歓迎を受け不安は吹き飛びました。僕のホームステイ先はシュワルツ家で、4人家族でした。家にはプールが付いていて、ビックリしました。

2日目、ツァイツ市長表敬訪問をして、市の宝物を見せてもらいました。まるでゲームの世界の秘宝のようでした。その日の夕方、家のプールで遊んだけど水が冷たくて、夜から体調を崩してしまいました。翌日ホストマザーが病院に連れて行ってくれ、1日中寝ていました。予定を狂わせてしまい、申し訳ない気持ちと、感謝の気持ちでいっぱいになりました。4日目、体調は良くなり、ブーヘンヴァルト強制収容所跡を訪問しました。そこは、空気が冷たく重く感じました。そこで行われた残虐な行為に、胸が締め付けられました。鎮魂の祈りを込めて、千羽鶴をお供えしました。



週末にはファミリーがドレスデンに連れて行ってくれました。ドレスデンは綺麗な建物ばかりで、日本と景色が違いました。特にモーリツブルグ城が目を引きました。この頃から自分の意見をはっきりと伝えられるようになり、ファミリーとの距離が縮まったと感じました。

それからアスレチックの森やフェーングロッテンなどに行き、あっという間に2週間が過ぎました。ライプツィヒ空港で、ファミリーとお別れする時は、涙がぐっとこみあげてきました。夢のような2週間でした。



今回のホームステイで、僕は人の温もりをたくさん感じました。そこに国籍は関係ないのです。身振り手振りでも、コミュニケーションがとれることも体験しました。一方、共通の言語が話せれば、もっとお互いの絆が深まったと思います。僕はもっと英語の勉強がしたくなりました。そして、ドイツのことももっと知りたいと思いました。ツァイツへの研修に行けて、本当に良かったと思います。このような機会を作ってくださった、鳥栖市子ども交流事業と家族に感謝しています。



「国境を越えたコミュニケーション」

篠原美賢

私にとって初めてのホームステイ。前日の夜は緊張と不安でなかなか眠れませんでした。長いフライトの時間を終え、いよいよホストファミリーとの対面の時。ドキドキしていた私を、ホストファミリーは優しく抱きしめて迎えてくれました。空港から各家庭へ向かう車の中では、ホストファミリーがたくさん話しかけてくれました。その時は緊張のあまり相槌を打ったり、質問に対してYESかNOで応えることが精一杯でした。窓から見えたキラキラしたドイツの風景に目を奪われつつ私の16日間のホームステイが始まりました。

ホームステイでは全てが初めてで、相手に気持ちを伝えることがとても大変でした。しかしホストファミリーやドイツの友達と共に過ごしていくにつれて、初めに感じていた緊張や不安はあっという間になくなっていました。

この研修の中で一番楽しかったことは乗馬を体験したことです。今まで体験したことがない乗馬は、可愛い馬に乗る度に馬と気持ちが通じてとても楽しかったです。また、ジャーマニージョークで、ただ乗るだけでなく、後ろ向きに乗ったり、馬の上に立ったり、1頭の馬に2～3人で乗せてもらったりもしました。とても楽しく貴重な経験ができました。



この15日間を通してたくさん
のことを学ぶことができました。その中で私が一番大切だと感じたことは「とにかく会話をしてみる」ということです。初対面の人と話すのはとても勇気がいることで、それも母国語以外の言語を使ってはおさらでした。でも完璧な英語でなくても、相手とコミュニケーションをとりたい！という強い気持ちで自分の知っている単語とジェスチャーで思い切って会話をしてみました。すると相手も同じ気持ちだったことに気づきました。この時、国境を越えたコミュニケーションには、知識だけでなく、伝えたい、知りたいという気持ちが何より大切なのだと実感しました。

この研修に行く前の私は英語に自信が有ると思っていました。しかし、この研修を通して自分の能力はまだだと実感しました。ホームステイで会話の一步を踏み出す時、英語力への自信はやはり必要で、しっかりと単語や文法を使った英語も大切だと思いました。私は、国境を越えたコミュニケーションの素晴らしさを、多くの人に伝え、交流の輪を広げられるように自分自身をさらに磨き成長させていきたいです。





「日本とドイツの違い」

檜枝香花

私は、この研修が初めての海外でした。飛行機に長時間乗ることや英語で2週間生活できるかなど不安なこともありましたが、でも楽しみなこともたくさんあったのでごくウキウキしながら行きました。私が驚いたドイツと日本の大きな違いを紹介します。

まず、気候が全く違うことです。湿度が日本に比べて低いので、蒸し暑さはありませんでした。気温は25度から暑くても30度くらいでした。さらに、夜は9時ごろまで明るかったので、ご飯を食べた後に、散歩しながらツアイツ市内を案内してくれて、夕日を8時40分ごろに見ました。日が暮れる時間が違うので、慣れるまで時間の感覚が分かりませんでした。

次に違いを感じたところは英語力です。ドイツの公用語はドイツ語ですが、私たちと同じ年代の人はほとんど英語を話すことができます。語彙も豊富でとてもびっくりしました。ドイツ人の通訳さんに聞いたら、同年代の学生は英語の授業で討論をするそうです。私の3つ下のホストシスターはあまり英語が分からないようでしたが、私の2つ下の友達のホストシスターは、英語がとても上手でした。たった1年の勉強でそんなに英語力がつくことはすごいと感じました。

自分が体感して違うと感じたことは、言葉です。日本では目上の人に敬語を使ったり、言いにくいことは遠回しに言ったりしますが、それは全く通じませんでした。そもそも翻訳もされませんでした。さらに料理を出してくれた時には「これは好き？」とストレートに聞かれました。私は嫌いなものはありませんでしたが、あまり好きではない料理もありました。初めはそんな時でもYESと答えていましたが、みんなの会話を聞いているとNOと言われても落ち込んでいる様子もなく、NOは嫌いではなく好きではないという意味であることが分かりました。自分の気持ちを正直に伝えることができ、それを否定しないことはすごいと感じました。

他にもたくさんのお話を学ぶことができたし、新たな発見もありました。日本が優れていると思うことも発見することができました。中学3年生という年齢でこのような経験をさせてくれた親と引率してくださった下川さんと鳥飼さんには感謝しかありません。また、受入や土日にはいろいろな場所に連れて行ってくれたホストファミリーのみんなにも感謝しかありません。最後にはアルバムまでつくってくれました。来年ホストシスターが日本に来たときには私がしてもらったように温かく迎え入れたいと思います。





「行って分かったドイツのすばらしさ」

宮原 伽歩

私がツアイツへ行って驚いたことは、人と人の距離が近いことです。空港で初めてホストファミリーと会った時にもハグや握手で温かく迎えてくれました。初めは、2週間何ごともなく過ごせるだろうかと不安でした。でもだんだんと生活に慣れ、日本に帰りたくないと思うほどでした。交流事業に参加している子どもたちや関わってくださる方は親切でとても温かい方たちばかりで、安心して過ごすことができました。ドイツへ行く前はコミュニケーションが取れるか不安でしたが、自分の話せる英語や翻訳アプリでやり取りしました。うまく話せず伝わらない時もありましたが、お互い諦めずに、私が理解できるまでジェスチャーなどでコミュニケーションを取り合いました。私は今回、自分から積極的にコミュニケーションをとることを目標にしていたのですが、なかなか話せずにいました。そんな時に子どもたちが、一緒にダンスしよう、遊ぼうと声をかけてくれて、うれしかったです。私も徐々に、一緒に写真を撮ろうなど自分から話しかけられるようになりました。また、会話が上手にできなくてもゲーム、ダンスなどで相手に伝えようという気持ちがあれば必ず伝わると感じました。



ドイツの食べ物はとても美味しかったです。私はパンが大好きです。ドイツのパンは、日本のものより固めでかむ度に味わいがあります。朝食にはプレッツェルや雑穀パンなど種類が豊富なパンが並びます。また、朝食は冷たいまま、夕食は温めて食べるとホストファミリーに教えてもらいました。朝食に温かいものを食べないという事に驚き、日本との習慣の違いを感じました。これは実際に体験してみなければわからないことです。



また、ドイツはとても環境に優しい国です。日本では少し前からエコバックを持ち始めていますがドイツももちろん持っています。日本との違いは、ペットボトルをスーパーにある専用の機械に入れ、リサイクルすると0.25ユーロ戻ってくるという仕組みになっていて驚きました。日本もリサイクルの仕方を考えていく必要があると思いました。

来年はホストファミリーを受け入れることになります。初めての国で今回の私のように不安も多いと思います。少しでも不安を取り除けるよう、今年よりも会話ができるよう英語を学び、ドイツの習慣を詳しく理解するように努力したいと思います。





「かけがえのないドイツでの経験」

長尾 咲 幸

私は、今回の交流事業が初めての海外でした。行く前は、海外で別の家族と過ごし、英語でコミュニケーションを取らなければならないことに、とても不安がありました。でも、ライプツィヒ空港でドイツの子ども達と会ったら、その不安もなくなっていきました。何日か過ごしてみると、ドイツと日本との違いをどんどん感じるようにもなりました。

1つ目は、食事です。最初は量の違いに驚きました。ホストファミリーの家でご飯を食べている時、「それだけでいいの?」と言われ、「これでも食べたよ!」と答えると「ドイツの人はもっと食べるよ」と言われました。日本の団員の中でも私は一番食べるのに、そう言われてとても驚きました。また、日本の食事より味が濃い物が多く、ドイツの味付けは塩よりもソースが主流でした。

2つ目は家に扇風機やクーラーが無いことです。日本は、夏になれば扇風機やクーラーを必ずと言っていいほど使いますが、ドイツでは全く使わないようです。湿度が低く、その必要が無いのでしょうか。

3つ目はドイツの人達の性格です。2週間過ごしてみて、ドイツの人達は自主性があり優しい人が多いと感じました。1週目の金曜日、みんなでTシャツを作った時にドイツの子ども達は、自分から「こうするのはどう?」と、意見を出し合っていました。これは日本人には、なかなかできることではないと思います。そして、ホストファミリーや、事業を通して知り合った人達はとてもフレンドリーで優しい人がほとんどでした。



だから私はドイツでの2週間を楽しく過ごせたのだと思います。2週間日本を離れてドイツで過ごしてみて、ドイツはとても過ごしやすい気候で、優しい人が多い



国だと思いました。ドイツのホストファミリーから学ばないといけないと思うことも、とても多かったです。また、ホームステイに出発する前よりも、もっとドイツ文化やドイツ語にも興味が湧きました。この事業に参加したドイツのみんな・鳥栖の団員。そして、みんなと過ごしたこの2週間は私にとってかけがえのないものになりました。こんなにも色々な勉強になり、楽しくて充実した2週間は、今後なかなか経験できないことだ と思います。一緒に過ごしてくれたみんなには感謝しかありません。来年、またドイツのみんなと会うことが今から楽しみです。この事業に参加して本当に良かったです。





「子ども交流事業に参加して」

小石 桃花

鳥栖市とツアイツ市の子ども交流事業に参加して、この夏、私は大きく成長したと思います。ドイツでは現地でしか学べない文化や歴史、また、ドイツ人の素敵な人柄に触れることができたからです。

まず、今回の交流趣旨である平和にちなんでワイマール市にあるブーヘンヴァルト強制収容所を見学し、日本にいる間に団員みんなで制作した千羽鶴を、黙とうと共に捧げました。日本は「原爆」ドイツは「ナチス」とお互い暗い歴史を持っています。そして、私はドイツではヒトラーについての話は禁句だと思っていました。しかし、現地ではどうしたら繰り返さないかとか、その時代どんな考え方をしていたのかなど、年齢関係なく熱く語り合うこともあり、そのような点は日本ではあまり見られない点だなどと思い感心させられました。



また、ホームステイ先では、食事の時には一緒に箸を使って食べてくれたり、私が日本食を振舞った時は「もう一度食べたいから作り方を教えてほしい」と言ってくれて、一緒に作ったりもしました。他にも、家族4人で休日用の別荘でゆっくり休んだりもしました。

週末は、ホストファミリーとその友達の家族と一緒にドレスデンに2泊3日の旅行に連れて行ってもらいました。ドレスデンでは大きな教会や古い建物やお城などたくさんの場所を観光しました。ドイツのシテイトレインに乗ったりたくさんの人と外でダンスを踊る体験、町の真ん中で披露されている演奏を聴きながらドイツの夜の街並みを家族と楽しんだりしました。他にも、家族以外のドイツ人や同じ観光をしている他の国の方とも会話をしたりしてヨーロッパの休日の過ごし方を体験することができました。日本は島国なのでなかなか沢山の国の人と交流することは難しいですが、ドイツでは日常に色々な国の方がいて、身近に交流することができるためとても貴重な経験になりました。



ドイツの交流はいつも音楽にあふれていて大人も子どもも一緒になってダンスを楽しみました。どの時間も本当に楽しくて日本に帰る日が近づくにつれ、別れが凄く悲しかったです。



最後に、この事業に参加してドイツを本当に好きになりました。ドイツに新しい家族ができて本当にうれしかったです。この研修に参加させていただいたとき、感謝の気持ちでいっぱいです。来年、ドイツの友達が来日するのがとても楽しみです。初めての海外は驚きの連続でした。



日記





日時：令和元年（2019） 7月28日（日曜日） 天気：くもり



今日の日程

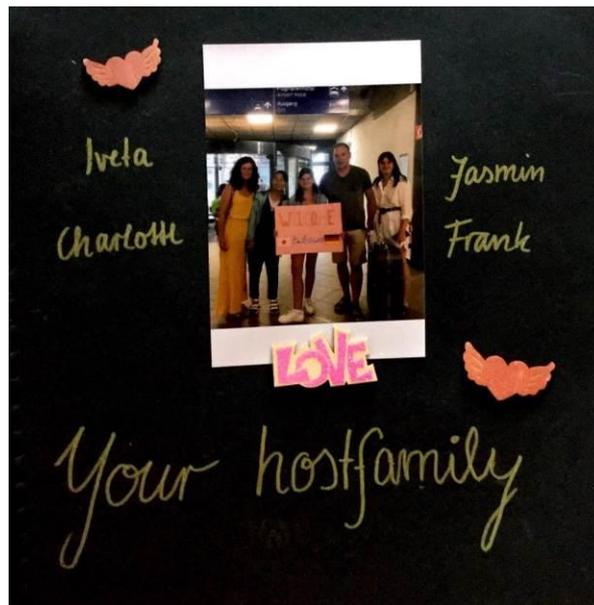
福岡空港 → 中部国際空港 →
フランクフルト国際空港 →ライ プツィヒ空港
→ホストファミリーの家へ

今日は、一日中移動でした。最初は、福岡空港から中部国際空港、次にフランクフルト国際空港、最後にライプツィヒ空港に行きました。

中部国際空港からフランクフルト国際空港までは12時間近くかかりましたが、時差があるので5時間過ぎたことになっていました。この日は、すごく長かったです。

フランクフルト国際空港へ行くための飛行機は、日本の会社ではなかったので、機内放送がドイツ語と英語の後に日本語を言ったり、席についているモニターの初期設定が英語だったりしたので、「今から外国に行くんだ」と実感がわきました。

ライプツィヒ空港に到着した時には、ホストファミリーのみんなが待っていてくれました。出発前にLINEで少し話をしていたので長旅で疲れた私は、とても安心しました。



担当：檜枝 香花





日時：令和元年（2019） 7月29日（月曜日） 天気：晴れ



今日の日程

ツアイツ市役所で副市長表敬訪問
ルスティカで昼食
ドラムワークショップ
⇒各家庭へ

ツアイツ市での生活が始まり、とても緊張していましたが1日楽しむことができました。表敬訪問の時は、みんなそれぞれ用意していた、ドイツ語での自己紹介をたどたどしくはあったけど、無事に披露することができてよかったです。昼食は、ルスティカで、おいしいドイツ料理を食べました。でも量がとても多く、日本とは違うと強く感じました。

ドラムワークショップでは、ホストファミリーとより仲良くなれた気がしました。ドイツでもk-popが流行っていて、残った時間でダンスを一緒にすることができてとてもよかったです。国を超えて流行っていることを知っておくと、外国の人との話題づくりになると思いました。

解散後、ホストファミリーとの買い物ではたくさんの発見がありました。まずは、日本と同じようなものがたくさんあったことです。日本でもスニッカーズやウェルダーオリジナルなどのお菓子が売られていて、ドイツにも同じものが売られていることに驚きました。

次にドイツの買い物の様子です。ドイツでは、店員さんとの会話が多かったです。最後には、「ダンケ（ありがとう）」と言って店を出ていたので、日本にもその習慣があるといいと思いました。



担当：長尾 咲幸





日時：令和元年（2019） 7月30日（火曜日） 天気：晴れ



今日の日程

学童保育所
モーリツブルグ城見学
昼食（青少年の家）
ブーヘンヴァルト強制収容所 跡訪問前の準備セミナー
⇒各家庭へ

学童保育所の様子は、日本とは違う様子でとても驚きました。日本の学童保育所より設備が整っていて、ドイツは進んでいるなと思いました。

また、モーリツブルグ城では、ベビーカーの歴史を学び、西ドイツと東ドイツでの販売方法を知ることができました。また、ドイツのピアノを弾くことができ、とてもよかったです。この事業のきっかけとなった「月光」の曲をドイツでも弾けたということは、私にとってとても感慨深いものがありました。

明日、訪問するブーヘンヴァルト強制収容所についても、しっかり学ぶことができました。日本では、あまり詳しくこの内容を習いませんが、ドイツではこのことについて、とても詳しく学んでいることを知りました。日本も詳しく教えるべきだと感じました。

今日の夜は、カールの家でパーティーを開いてくれたので、他のホストファミリーとも仲良くなれてよかったです。ドイツの遊びのミカドも教えてもらいました。来年、日本に来たら、日本の遊びも教えたいと思います。

とても充実した1日を過ごすことができました。



担当：長尾 咲幸





日時：令和元年（2019） 7月31日（水曜日） 天気 くもりのち晴れ



今日の日程

ブーヘンヴァルト強制収容所跡見学

昼食（ケバブ）

ワイマール市内見学

⇒各家庭へ

今日は、まずブーヘンヴァルト強制収容所跡に行きました。前日の準備セミナーで、ドイツにどのくらい収容所があったのかなど、強制収容所について説明してもらいましたが、実際に見ると想像以上にひどく、衝撃を受けました。今も残されている収容所の入口にある時計は、解放の時刻で止まっていた。

この収容所は、1937年～1945年まで使用され、開放される時は一番大きかったそうで、死者数が56,545人にのぼると聞きとても驚きました。一番驚いたことは、収容者の扱いです。まず、収容所に連れて行かれると、労働可能か不可能か選別され、不可能と判断されるとすぐに殺されてしまうというひどい扱いでした。また、収容者の仕事の中に、収容者のためのバラックを作る仕事があったことです。バラックは、収容者が過ごすところで、自分で自分の収容所を作っているようなものです。もう二度と同じようなことを起こしてはいけないと思いました。そして、起こったのがほんの70年～80年前という決して昔ではないことを心に留めて、自分が不自由なく生活できていることに感謝をしたいと思います。

昼食は、ケバブを食べました。ドイツに来て驚いたことの一つに、1食に食べる食事の量が多いことです。

午後のワイマール市内見学で、郵便局を見ました。とても郵便局とは思えないほど、きれいな建物でした。あと10日間、旅を楽しみたいです。



担当：宮原 伽歩



日時：令和元年（2019） 8月1日（木曜日） 天気：晴れ



今日の日程

乗馬体験
昼食（騎士の家）
ツアイツ地下通路見学
日本庭園見学
⇒各家庭へ

8月1日、朝起きてカールと一緒に、青少年の家に行ったら、日本人もドイツ人も卓球をしていました。ドイツ人も卓球を知っていることを知り、少し驚きました。

車で10分ぐらいのところにある乗馬クラブに移動しました。車から降りると、馬のにおいがして少し嫌だったけれど、だんだん慣れてきたのでよかったです。初めは、馬についての説明を聞いて、次に乗馬をしました。初めに見た馬は、とても大きかったです。そして、初めて乗馬するとき、少し不安な気持ちと、わくわくする気持ちがありました。実際、乗ってみると乗り心地はよくないけれど、そんなに怖くはなく、メリーゴーランドにいるようで、とても楽しかったです。

昼食は、食べきれない量のチャーハンと焼きそばが出てきました。完食はできなかったけれど、とてもおいしかったです。

その後、馬車に乗り、地下通路見学に行きました。地下にはビールが置いてあり、1年間ほど置いていたことが分かりました。中はかなり冷えていました。残り9日間、悔いの残らないよう楽しみたいと思います。

担当：桑原 孝明





日時：令和元年（2019） 8月2日（金曜日） 天気：晴れ



今日の日程

シルクスクリーン工房
昼食（ポーザー修道院）
シルクスクリーン工房
⇒各家庭へ

今日は、ポーザー修道院にあるシルクスクリーン工房に行きました。工房では、オリジナルTシャツとトートバッグを制作しました。

まず、工房の方に、印刷方法や工房の歴史を少し話していただきました。版画のような印刷方法に驚きました。

オリジナルデザインは、日本とドイツの会話のフレーズをそれぞれグループで出し合いました。グループは、日本人2人とドイツ人2人の4人のグループで行いました。フレーズを考える際、自分たちの日本語のフレーズがどのようなイントネーションで、どのような時に使うのかドイツの友だちに教えたり、また、教えてもらったりと、とても貴重な経験でした。

出し合ったフレーズをコラージュして、オリジナルデザインを作りました。Tシャツもトートバッグも、とても可愛く思い出の作品になりました。

その後は、ホストファミリーと2泊3日のドレスデン旅行の初日でした。夕方からでしたが、ライトアップされた教会や城が本当にきれいでした。歴史あるドレスデンの町や建物を見学できて本当に楽しかったです。

担当：小石 桃花





日時：令和元年（2019） 8月3日（土曜日） 天気：雨



今日の日程

受入家族の企画

今日は、エミリーの乗馬大会に行くために、朝4時半に起きました。その日は雨が降っていたのでとても寒かったです。日本とは違い、乗馬をする人口が多いと分かりました。結果はよくなかったそうです。しかし、馬の状態によって言うことを聞かなかったりするので、とても難しいスポーツだと思いました。

13時頃に帰宅し、朝早かったので1時間ぐらい寝ました。

それから、16時前からライブツィヒに行きました。大型ショッピングセンターの中にある寿司屋に行きました。回転寿司でしたが、中華料理の揚げ物などが多かったです。

その後、町を歩きました。昔の建物の中を改造して使っている店が多かったです。スポーツ専門店に行くと、野球のコーナーがないことに驚きました。この1日で日本との違いや、違う文化を見つけることができよかったです。



担当：宮原 孜瑠





日時：令和元年（2019） 8月4日（日曜日） 天気：晴れ



今日の日程

受入家族の企画

今日は、アルテンブルグにある、昔、王様が住んでいたお城に行きました。このお城は、800年に建てられたそうです。中には、大きなパイプオルガンがある教会がありました。壁にあるガラスは、人や葉などがペイントされているそうです。とても細かくてきれいでした。

狩をしていた時代があり、当時を再現され、熊の毛皮を置いてあったので、とても驚きました。お城の中には、かつてトランプ工場があり、浮世絵柄のトランプ、三角や卵型のトランプなどがたくさん展示してあり、面白かったです。また、陶器の展示室に日本の有田焼があり、とても驚きました。

夕方からは、咲幸ちゃん、ハナ、妹のビギーと一緒に、ロミの家で遊びました。敷地の中にあるプールで、少し寒かったけれどボールなどで遊び、とても楽しかったです。プールの後にはバドミントン、夕食の後に Halli Galli というフルーツのカードゲームをしました。順番に1枚ずつカードを出していき、同じフルーツが5個そろると、ベルを鳴らすことができ、カードをもらうことができるゲームで、とても盛り上がって楽しかったです。

担当：宮原 伽歩



日時：令和元年（2019） 8月5日（月曜日） 天気：晴れ



今日の日程

ライプツィヒ市内見学

昼食（カレーヴルスト）

ライプツィヒ市内見学

⇒各家庭へ

朝起きて、カールと一緒に青少年の家に行きました。そして、1時間20分かけてライプツィヒに行きました。初めに、ライプツィヒ大学の図書館に行きました。中はとても白くてきれいでした。

昼食は、歩いてホットドック屋に行き、カレーヴルスト（一口大に切った大きなソーセージとポテトにケチャップとカレーパウダーをかけたもの）を食べました。とても美味しかったけれど、ケチャップの量がとても多くて、少し塩辛かったです。

昼食の後、1時間ほど自由行動でした。そこには、大きなショッピングモールやスーパーがあったので、そこでお土産を買おうと思い、歩いて行きました。中には、たくさんの種類のお土産や化粧品、洋服などを売っていました。お土産に何をかうか迷ったけれど、結局、お菓子にしました。そこで、ハリボーというグミを買いました。

その後、諸国民戦いの記念碑を見学しました。遠くから見るとあまり大きくないけれど、間近で見るととても大きかったです。一番上まで登るのに、階段で上がったので、とてもきつかったです。明日は、筋肉痛になりそうです。残り5日間、ドイツを満喫したいです。



担当：桑原 孝明



日時：令和元年（2019） 8月6日（火曜日） 天気：曇り時々雨



今日の日程

コロリート劇場

昼食（コロリート劇場）

アスレチックの森体験

⇒各家庭へ

今日の午前中は、コロリート劇場を訪問しました。私たちが知っているような劇とは少し違い、言葉を発さずに体だけで自分の気持ち表現するという創作劇を体験しました。ホームステイの準備をする様子や、飛行機での様子など、様々な場面を演じました。

初めは恥ずかしくて動きが小さかったのですが、やっているうちにだんだん楽しくなりました。また、楽しさだけでなく、言葉を使わなくてもみんながお互いを理解し合い、気持ちを共有することで生まれる一体感を感じることができました。みんなで集中して臨んだので、終わった後は達成感でいっぱいでした。

昼食は、パンにソーセージを挟んだ手作りのホットドッグを食べました。頑張った後の食事は、よりの層おいしくて、ドイツ本場のソーセージを使ったホットドッグは格別でした。

午後は、ナウムブルグに移動して、アスレチックの森を体験しました。見た感じと実際に体験するのでは違って、思っていた以上に難しかったです。高い所への一步を踏み出す勇気がなかなか出なかったけれど、思い切ってやってみると、とても楽しかったです。また、挑戦してみたいです。

担当：篠原 美賢





日時：令和元年（2019） 8月7日（水曜日） 天気：曇り時々雨



今日の日程

州議会堂見学
昼食（州議会堂）
マグデブルグ大聖堂見学 ⇒自由行動
⇒各家庭へ

今日の午前中は、バスでマグデブルグまで行きました。移動で使ったバスが私たちの人数に対してかなり大きなバスだったので、広々とみんなで乗車し、贅沢な気持ちでの移動となりました。

マグデブルグに到着して、州議会堂を見学しました。外観はとても大きく、内観は日の光がたくさん降り注ぐ明るい部屋でした。ここで州を動かす議論が行われているんだなと思いました。日本の国会議事堂にも行ってみたいと思いました。

昼食は、州議会堂の中でミートソースパスタを食べました。おいしかったです。

午後は、大聖堂を見学しました。ここでは内部の写真が自由に撮れなかったので、厳かな建物内をしっかりと目に焼き付けてきました。その後は、自由行動でショッピングに行きました。ドイツに来て日本との違いに改めて気づきました。事前研修で聞いてはいましたが、実際に体験し、ドイツのリサイクルへの意識は、日本よりずいぶん高いと感じました。

私ももっとマイバッグへの意識、リサイクルへの意識を持ちたいと思い、早速ドイツでかわいいエコバッグを買いました。今日もとても楽しく充実した1日でした。



担当：篠原 美賢





日時：令和元年（2019） 8月8日（木曜日） 天気：晴れ



今日の日程

フェーングロッテン（妖精洞窟）、 妖精の森見学
昼食（ハイデックス城近辺）
ダム見学
⇒各家庭へ

今日は、フェーングロッテン（妖精洞窟）に行きました。洞窟の中は寒かったです。今日行ったところは、観光用に穴が大きくなっていましたが、当時掘っていた穴を見ると、とても小さかったです。

炭鉱作業をしていた場所も見ました。今は機械があって、とても簡単にできるけれど、当時は手作業で、掘ったものも手で運ぶので今がとても便利だと思いました。当時掘るときに使っていた道具を実際にさわりました。火をつけるために使っていた道具は、少し火花を出すことができたけれど、難しかったです。ハンマーなども持ってみたけれど、とても重かったです。

穴は、早い人で一日10センチメートルしか進まないと聞いたとき、とても驚きました。1日の労働時間も12時間だと聞いて驚きました。今は機械化されていて、人の力をそんなに使わなくていい時代なので、昔の大変さが分かりました。

普段使っているものに感謝しながら使いたいです。

担当：宮原 孜瑠





日時：令和年（2019） 8月9日（金曜日） 天気：晴れ



今日の日程

和食調理
送別会の練習
送別会

みんなとパーティーをする最後の日になってしまいました。

最初は日本人とドイツ人で分かれていました。でも、研修やほとんど毎晩あっていたパーティーでみんなの仲がどんどん深まって行って、がんばって英単語を並べて身振り手振りで会話をして、言葉の壁もなんとか乗り越えることができました。想像以上に別れることがさみしいです。そんなことを思うのは一瞬で、みんなでご飯を食べたり、踊ったり、日本にはない形の送別会でした。とても楽しかったです。

私たちはみんなで肉じゃがとお好み焼きを作りました。久しぶりの日本料理でした。ドイツの人はお好み焼きをジャパニーズピザと呼んでいました。出し物では、けん玉と、福笑いも紹介しました。みんなが楽しそうにしていました。

言葉が無くてもみんなで笑えることは素晴らしいことだと思いました。家に帰っても楽しそうに遊んでいました。私のホストシスターとおばあちゃんは、けん玉にとっても夢中になっていました。

担当：檜枝 香花





日時：令和元年（2019） 8月10日（土曜日） 天気：晴れ



今日の日程

受入家族の企画

今日は、昼食に和風パスタを作りました。たらこ味だったので、気に入ってもらえるか不安だったけれど、気に入ってもらえたのでよかったです。おやつには、ホストファミリーとカップケーキとくず豆腐を作りました。日本のスイーツと一緒に作れて、喜んでもらったのでよかったです。

夜は、ロミの家にお邪魔して、ご飯を食べました。ドイツのスープみたいなものとパンでした。ドイツでの夕食は最後だったので、余計おいしく感じました。

夕食後には、ドイツのカードゲームをしました。同じフルーツの絵柄が5つそろったらベルを鳴らすというゲームです。私はいつも最初に負けてしまうので、ずっとみんながやっているゲームを見ていました。でも見るだけでも楽しくて、ドキドキするので、本当に楽しいゲームだと思いました。

ドイツでの最後の1日を楽しく有意義に過ごせたのでよかったです。

担当：長尾 咲幸





日時：令和元年（2019） 8月11日（日曜） 天気：晴れ



今日の日程

ライプツィヒ空港→フランクフルト
国際空港

→羽田空港

とうとう、ドイツの家族とお別れの日がやってきました。この2週間、まるでずっと一緒にいた家族のように接してくれて、毎日が本当に楽しかったです。この2週間を振り返ると、初めて私がホストハウスにやってきた日に皆で歓迎してくれたことや、皆で箸を使って食事をしたこと、2泊3日の旅行に行ったこと、日本食を一緒に作ったことなど、とても貴重な思い出がたくさんできました。

前日の夜、寝る前にホストファザーとホストマザーに呼ばれてリビングに行きました。そこにはたくさんのプレゼントとドイツ語を一生懸命日本語に訳してくれたメッセージをプレゼントしてくれました。プレゼントにはツァイツ産のお菓子や文具、私が連れて行ってもらったすべての場所の英語版のパンフレットなど、日本に帰っても忘れないでねと書いてありました。

また、メッセージには本当の両親のように、優しい言葉や心配していることがたくさん書いてありました。それを読んでたくさん”ありがとう”を伝えてたくさん泣きました。私の新しい家族がゾンネンベルク家で本当に良かったと思いました。

私も家族のみんなに、家からもってきたコルクボードを使って写真を貼ったプレゼントと手紙をプレゼントしました。日本に着いてから、パウラからのSNSですごく喜んでくれたことがわかって本当に良かったと思いました。

またゾンネンベルク家に行きたいなと思いました。

担当：小石 桃花





日時：令和元年（2019） 8月12日（月曜日） 天気：晴れ



今日の日程

羽田空港→福岡空港

→鳥栖市役所到着

解団式（帰国報告）

今日は、日本に着いて鳥栖の市役所で解団式(帰国報告)をしました。まず、健康で無事に帰って来る事ができたので良かったです。

市長さんたちに主に日本と違ったドイツ文化のことや、ドイツの一番おいしかったもの、コミュニケーションでの工夫などたくさん報告をしました。ドイツは環境に特に力をいれている国なのは知っていましたが、ゴミの分別がしっかりしてあったり、デポジットという仕組みがあったり、町のあちこちに風力発電用の風車があったりなど、日本とは意識の大きさが改めて違うなど実感しました。

また、コミュニケーションでは自分の意見をしっかり伝えることが重要だったり、ドイツの人は討論が大好きだったりなど、意外な場面もたくさんあっておもしろかったです。ドイツでは、常に音楽に溢れていて、これも一つの文化だなと思いました。本当に良い経験になりました。

ドイツにいる時は、楽しさと忙しさに追われて考える事はできませんでしたが、日本に帰ると、市役所では多くの方々が待っていてくださり、こんなに良い経験ができたのは鳥栖市やツァイツ市の方々や家族のおかげだなと改めて感じました。今後も、今回の経験を活かして国際交流を続けていきたいと強く思いました。

担当：小石 桃花

